会　　議　　録

会議名 （審議会等名）		第１回　相模原市教育振興計画策定委員会		
事務局 （担当課）		教育局教育総務室　電話０４２－７６９－８２８０（直通）		
開催日時		平成３０年８月１日（水）　午前９時３０分から午前１１時４５分まで		
開催場所		杜のホールはしもと　多目的室		
出席者	委員等	１９人（別紙のとおり）		
	事務局	１８人（教育長他１７人）		
公開の可否		■可　□不可　□一部不可	傍聴者数	０人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		１　開会 ２　委員・事務局紹介 ３　委員長・副委員長選任 ４　諮問 ５　新たな計画の策定について ６　現状と課題について ７　アンケートについて ８　その他 ９　閉会		

審　議　経　過

主な内容は次のとおり。（□は委員長、■は副委員長、○は委員等、●は事務局の発言）

1　開会

2　委員・事務局紹介

3　委員長・副委員長選任
事務局案があれば提案するよう委員から発言があったため、事務局より委員長に酒井委員、副委員長に秦野委員とする提案を行った。その後、委員の賛同を得て、同委員が選任された。

4　諮問
教育長より酒井委員長に「相模原市教育振興計画について」諮問を行った。

5　新たな計画の策定について
□説明内容について、確認・質問があればお願いする。（意見なし）

6　現状と課題について
□今後、この内容を踏まえて検討していくこととする。本日は、相模原市の教育の方向性などについて、委員の皆さんに一言ずつお願いする。また、オブザーバーである市立学校校長には、学校の現状について発言をお願いする。
○当クラブ（相模原ライズ・アスリート・クラブ）はホームタウンチームの一員として、体育の出張授業やあいさつ運動等を行っている。教育分野の異色の存在として、どのように関わっていけるかを考えて活動している。体力と学力は深く関連することが認められていることもあり、当クラブが上手く連携することで、身体を動かすことが楽しくなるようにしていきたい。
○少子高齢化や今後の財政状況が、新たな計画の内容にも関係してくると考えている。また、社会教育、学校教育、家庭教育の重なる部分について、福祉分野も含めて、どのように連携していくかを考える必要がある。なお、資料について、公民館に関する掲載が少なく感じたが、アンケートに質問があるため、その結果で現状等を確認していきたい。
○子どもに関する情報を学校と共有しながら、子どもを守る活動に更に力を入れていきたい。
○高校関係者の立場で言うと、生徒の９０％が市内在住なので、相模原市の義務教育の影響は大きいと考える。また、今後、高大接続改革が進んでいく中で、高校としてどういう生徒を育てるかという課題に直面している。これからは、基礎・技能教育が７０％で、残り３０％は多様な体験活動が重要となる。人生１００年時代が到来し、１つのキャリアでは通用しない時代を迎える中で、子どもたちが多様な経験をすることが、学び直しをしながら生きていく力につながると思う。
○会社という立場からの視点で発言したい。ＩＴ関連企業で働いており、時代の流れの速さ

を感じている。１つのキャリアで生きていくのが難しい時代になってきており、自分が何をしているのか、何をしたいのかを理解し、根本的な変化に向き合える力を養う教育がこれからは必要である。また、相模原市は入ってくる人・出ていく人が多いため、１回外に出て新しいことを知り、最終的に戻って来るように、または、相模原市で生まれ育った経験を糧に外で活躍できるように、根っこが相模原市にある教育ができれば良いと考えている。

○保護者の立場から、学力の問題、スマートフォンの普及などに興味を感じた。また、実体験から、最近は子どもたちの本を読む時間が減っていると感じている。中高生を取り巻く環境の変化が大きい中、子どもたちがこれからも安心・安全に通える学校、保護者同士もコミュニケーションがとれる学校であってほしい。また、市立図書館を中央図書館として再整備を進める際、単なる図書館ではなく、地域での役割を持たせるとともに子どもたちが安心して過ごせる場になってほしいと考えている。

○スマートフォンが多く使われており、ＳＮＳ等による人とのつながりが増えている一方で、不登校の原因としてコミュニケーション力の不足が挙げられており、矛盾を感じる。不確定な時代の中では学校でコミュニケーション力をしっかりと育成することが重要であり、学校の魅力向上にもつながると考えている。現状、多くの子どもたちが学校を楽しいと感じており、そういう部分をうまく生かした教育施策が必要であると考えている。

○特別支援学級や通級指導教室に在籍する児童生徒数が増えており、特別支援学校においても過大規模化が起きている。この理由として、保護者の特別支援学校への心理的ハードルが下がったことと、専門性が挙げられる。今後、支援を必要とする子どもたちの力を伸ばすために、どこで学ぶのが良いのか、どのような支援体制を整えれば良いのかを特別支援学校と市が協力して考えていく必要がある。

○学力及び体力の低下を率直に感じた。子育て世代は、良い学校が多いところに転入したいと考える。そのため、教員の負担を減らし、教員の質を高め、教育内容を充実させて学力向上に努めることや、相模原独自の部活動のガイドラインなど体力向上に努めることについて検討していきたい。

○幼稚園から始まる幼児教育は大切だと言われているが、支援が足りないと感じている。幼児教育の支援に目を向け、施策を考えてほしい。

○教育には２つが必要と考えている。１つ目は論理教育であり、論理的に自分の頭で考える力を養うことである。全国学力・学習状況調査において、子どもたちは全国的に論理的思考力に係る問題で正答率が低くなっているが、これは大人も含めた日本人全体の特徴である。対応策として、今後、データとエビデンスで考える教育を進めていけば良いと考えている。２つ目は、教員の研修・リカレント教育である。これを制度として進めれば、教育力は上がると考えている。

○これからの子どもたちにはコミュニケーション能力が必要である。教員の負担が増える中、クラス規模を小さくして、教育の向上に努める必要がある。また、子どもたちの主体性を大切にするために子どもたちの声に耳を傾けることや、食べることが生きることであることから、学校給食の充実も必要である。さらに、選挙権が１８歳に引き下げられたため、主権者として子どもたちを育てる視点も必要である。

○学校教育から仕事につながる教育システムが構築されておらず、現在は広い意味での進路

指導が出来ていないと考える。また、支援が必要な若者は自尊感情が大きく傷つき対人不安が拍車をかけ、自分の位置感覚が損なわれている。この問題は特定の人だけではなく、社会全般の若者に当てはまる問題と認識している。教育と福祉と労働がどう連携するかが重要であると考えている。

○相模原市で母親や地域のボランティア、教員の研修を行っている中で、相模原市に必要と考えることを２つ紹介する。１つ目は、学校支援の具体的な方法である。チームを組み、大人たちの輪、システムをいかにつくっていくかということである。２つ目は、家庭教育である。親に対する支援や教育、共助グループのシステムがないことから、小さな地域でモデルをつくり、多世代異年齢で知恵を出し合って進めることが必要である。

○教育現場で教員の数が減ったと感じており、人材を投入する必要があると考えている。また、教員だけで足りない部分は地域で支援することが今後必要である。チームで学校を支えているところでは上手くいっているので、チームで支える方向で進めていきたい。さらに、保護者が教育現場に目を向けるようにしたい。

□学校現場からの意見をお願いする。

○学力向上について、学校では、全国学力・学習状況調査の内容を分析して授業に活かすこと、短時間学習を増やすことなどを行った。保護者にも調査結果を伝え、家庭学習の大切さやスマートフォンの使用時間の長さなどを伝えるとともに、学年で統一した家庭学習の取組を行っている。また、学習支援員の配置や放課後補習などを実施し、学力向上に努めている。教育の成果はすぐには出ないが、教育委員会と連携して継続していくことが必要である。

○学校教育で身につけることが求められる学力について、覚える学力から仲間と考える学力に変化している。また、不登校が多く、日本語の指導を含めた支援を必要とする子どもたちも増えるなど、関係機関との連携の必要性だけではなく、中身も問われている。心の問題では、悩みの相談相手としては現在も友達が多いと思うが、ネット社会であり、相談する場所が変わってきていると思う。また、道徳の授業では生き方について教員と子どもたちで語り合えることが重要と考える。

■子どもの教育と大人の教育はセットであると考えており、大人の学びのシステムがあると良い。現在の大学生は一人になると弱く、異年齢や多文化の中ではコミュニケーションがとれなくなるのも、大人の姿の反映と考えられる。また、学校支援について、学校や子どもはどんどん変化しているが、過去の経験から学校や子どものことを知っていると勘違いしている大人が多い。大人が現在の学校や子どものことをしっかり学ぶことで学校支援の必要性を感じ、支援活動につながっていくことから、大人が学校や子どもの現状を学ぶ機会を増やしていくことが必要である。

□２つある。１つ目は、現状を踏まえながら、ＰＤＣＡの観点からきちんとした計画を作ることである。２つ目は、子どもの自尊感情、人間形成を総合的に考えていくことである。また、相模原市は政令指定都市であり、教育分野に関して自由度の高い計画の策定が可能であることから、創造性豊かに考えていきたい。

7　アンケートについて

○アンケートの差し替えがあったが、内容は変わっているのか。

□答えやすさに配慮し表現を修正しているが、質問内容は変わっていない。

□アンケートについては意見があると思うので、会議後、事務局にＥメール等で送付してもらい、対応することとする。

●アンケートに対する意見は、８月７日（火）までにＥメールまたはＦＡＸで事務局までお願いしたい。その後、委員長・副委員長と調整し、確定させていただきたい。

8　その他

○子ども子育て支援計画など他の計画と整合性をどのように図るのか。

●それぞれの計画で本日のような会議が行われ、関係する施策を所管する事務局の職員も参加している。行政内部で整合を図るとともに、必要に応じて他の計画の進捗状況や概要もこの委員会に適宜報告する。

○ある程度決まった段階で報告があるということか。

●ご意見のとおりである。

9　閉会

以　上

相模原市教育振興計画策定委員会委員等　出欠席名簿

（平成３０年８月１日開催）

	氏　名	所　属　等	出欠席	備考
1	飯島　沙織	特定非営利活動法人相模原ライズ・アスリート・クラブ　クラブマネージャー	出席	
2	大貫　勲	相模原市立大沢公民館　館長	出席	
3	大貫　君夫	相模原市民生委員児童委員協議会　副会長	出席	
4	後藤　直樹	神奈川県立麻溝台高等学校　校長	出席	
5	小橋　隆司	株式会社デスケル　代表取締役	出席	
6	酒井　朗	上智大学　教授	出席	委員長
7	佐藤　敦子	公募	出席	
8	佐藤　毅彦	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所　教授	出席	
9	塚田　久美	神奈川県立津久井養護学校　校長	出席	
10	中里　浩章	相模原市立小中学校ＰＴＡ連絡協議会　副会長	出席	
11	永保　貴章	一般社団法人相模原市幼稚園・認定こども園協会副会長	欠席	
12	西出　利一	公募	出席	
13	秦野　玲子	ＲＥ　Ｌｅａｒｎｉｎｇ　代表	出席	副委員長
14	原田　康子	公募	出席	
15	藤井　智	特定非営利活動法人文化学習協同ネットワーク常務理事	出席	
16	星山　麻木	明星大学　教授	出席	
17	若林　由美	相模原市立小中学校ＰＴＡ連絡協議会　会計	出席	

【関係者】

18	門川　秀樹	相模原市立横山小学校　校長	出席	
19	黛　　裕治	一般社団法人相模原市幼稚園・認定こども園協会副会長	出席	
20	守屋　和幸	相模原市立中沢中学校　校長	出席	